

Tazo Nagano Photo Exhibition

A photographer
at the pioneer days of Nara NRICP

草創期の奈文研を支えた写真家

永野太造作品展

平城宮跡資料館

平成29年度

春期企画展

2017. 4/29 sat ~ 5/31 wed

岡寺 塑像大如意輪観音 (撮影 永野太造)

現在の奈良文化財研究所は、奈良国立文化財研究所として、昭和二十七年（一九五二）に、南都・奈良に残る多数の古建築や古美術品を総合的に調査・研究するために設置されました。当時、奈良国立博物館東側にあった永野鹿鳴荘を営んでいた写真家永野太造氏は、奈文研草創期の十五年間にわたって調査に同行し、写真撮影をおこないました。奈文研の写真台帳に最初に登録された写真も氏によるものあり、氏が撮影した一二九二枚もの文化財写真が奈文研に残されています。

今回、たくさんのガラス乾板や仏像写真パネルなど、氏に関わる資料を所蔵されている帝塚山大学と「永野太造作品展「草創期の奈文研を支えた写真家」」を共催いたします。

氏の写真には、草創期の奈文研の研究活動の一端や、昭和三十年代を中心とする時期の文化財を取り巻く状況が切り取られて残されています。今回の展覧会で、あまり知られていない草創期の奈文研とそれを支えた写真家に光をあて、文化財保護の歴史の一端を振り返ってみたいと思います。

最後になりましたが、共催していただきました帝塚山大学と、写真の展示をご許可いただきました各寺院をはじめとする関係機関・関係者の皆様に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成二十九年四月

独立行政法人 国立文化財機構

奈良文化財研究所長

松村 恵 司

凡例

1. 本シートは、奈良文化財研究所平城宮跡資料館でおこなう平成29年度春期企画展「永野太造作品展－草創期の奈文研を支えた写真家－」（会期4月29日～5月31日）にあわせて編集したものである。
2. 本展覧会は、奈良文化財研究所企画調整部展示企画室が企画、実施し、帝塚山大学が共催した。また、国土交通省近畿地方整備局飛鳥歴史公園事務所、近畿日本鉄道株式会社の後援を賜った。
3. 本展覧会の開催とシートの作成にあたっては、下記機関、寺社の協力を得た。
国立歴史民俗博物館、東京大学史料編纂所、多賀町教育委員会、帝塚山大学考古学研究所・附属博物館、岡寺、海住山寺、興福寺、西大寺、大安寺、唐招提寺、東大寺、胡宮神社
4. 本シートの作成は、展示企画室の加藤真二（本文執筆）、三輪仁美（現・宮内庁書陵部、本文執筆）、田中恵美、廣瀬智子（編集・画）、福島冠如がおこなった。
5. 本展覧会に展示した写真は、奈良文化財研究所、帝塚山大学が保管・所蔵する永野太造氏撮影のガラス乾板をデジタルデータ化し、プリントアウトしたものである。データ化にあたっては、奈良文化財研究所企画調整部写真室の中村一郎、鎌倉綾の全面的な協力を仰いだ。
6. 本展覧会の開催、本シートの作成にあたっては、次の方々の協力を得た。あつく感謝いたします（五十音順）。
鷲森浩幸、清水昭博、永野文男、服部敦子、帝塚山大学考古学研究所・附属博物館の皆様

永野 太造 プロフィール

大正十一年（一九二二）大阪市生まれ。

戦後、伯父夫婦が営んでいた奈良国立博物館本館東の茶店を継ぐ傍ら、独学で写真始める。やがて奈良国立文化財研究所小林剛氏らの依頼で文化財調査に同行して写真撮影に携わり、戦後の奈良を代表する仏像写真家の一人として活躍した。

『奈良六大寺大観』、『大和古寺大観』（岩波書店）などの美術全集をはじめ多くの美術書に作品が掲載されている。

また、観光ポスター「奈良大和路」シリーズのうち、昭和三十一年（一九五六）に制作された「東大寺法華堂月光菩薩像」は、翌年の世界観光ポスター展で最優秀賞を受賞した。

平成二年（一九九〇）に逝去、享年六十八歳。

おかでら
岡寺 仁王門

そぞうによいりんかんのんざぞう
岡寺 塑造如意輪観音坐像

けんがく
岡寺 懸額

奈文研所蔵乾板



奈文研の写真台帳に最初に登録されたのは、意外にも奈良市内から離れた奈良県明日香村にある岡寺（龍蓋寺）の一連の写真です。仁王門の写真が登録
第一号（登録番号52-0-1）。

撮影日は奈文研が設置された昭和二十七（一九五二）
年度の一九五三年二月六日、撮影者は永野太造。

本堂に鎮座する塑造如意輪観音坐像は、塑像として
は日本最大のもので、奈良時代の作。

懸額は鎌倉時代のもので、弘法大師空海による
ものとされています。

唐招提寺 鑑真和上坐像

帝塚山大学所蔵乾板

唐招提寺総合調査は、昭和二十九・三十五・三十六年度におこなわれました。天平期の代表的な彫刻である鑑真和上坐像も撮影されました。

唐招提寺 金堂西嶋尾
唐招提寺 金堂東嶋尾

奈文研所蔵乾板

永野氏自身が金堂の屋根にのぼって写真撮影したことがわかります。西の嶋尾は、創建期の天平の奠。東の嶋尾は、写真にも見てとれる刻字により鎌倉時代の元亨三年（一一三三）の補作であることがわかります。ともに平成の大修理によって取り外され、現在は、新宝蔵に安置されています。

唐招提寺 金堂千手観音立像
唐招提寺 金堂諸仏

奈文研所蔵乾板

千手観音立像は奈良時代の傑作とされ、実際に千本の手があったと考えられます。盧舎那仏坐像を中心に、奥に薬師如来立像、手前に千手観音立像が並び写真では、奈良時代を彷彿させる厳かな雰囲気を感じられるとともに、天井をふくめ、当時の金堂内陣の状況がよくわかります。

唐招提寺 金堂帝釈天立像台座裏落書

帝塚山大学所蔵乾板

仏像調査の際に、金堂に置かれている帝釈天、梵天の台座裏から奈良時代の落書きが発見されました。奈良時代の絵画資料として貴重なものになっています。



唐招提寺

勅額 ちよくかく

帝塚山大学所蔵乾板

寺伝では、講堂あるいは中門ちゆうもんに掲げられていたとされています。東大寺西大門のものとともに、今に残る奈良時代の扁額へんがくで、その文字は孝謙天皇こうけんの宸筆しんぴつと伝えられています。現在は新宝蔵に移されています。

唐招提寺

金堂

中ちゆう枢しゆう伽藍遠景がらんえん（北東側から）

経蔵と宝蔵きやうぞう

鼓楼と礼堂ころう

戒壇かいだん

帝塚山大学所蔵乾板

これらの永野氏の写真は、当時の伽藍の状況を切り取っています。戒壇などは、現在整備されています。

西大寺

如意輪観音半跏像にょいりんかんのんはんかざう

帝塚山大学所蔵乾板

西大寺の総合調査は昭和三十年度に着手されました。如意輪観音半跏像は、現在、聚宝館しゅうぼうかんでご覧になります。

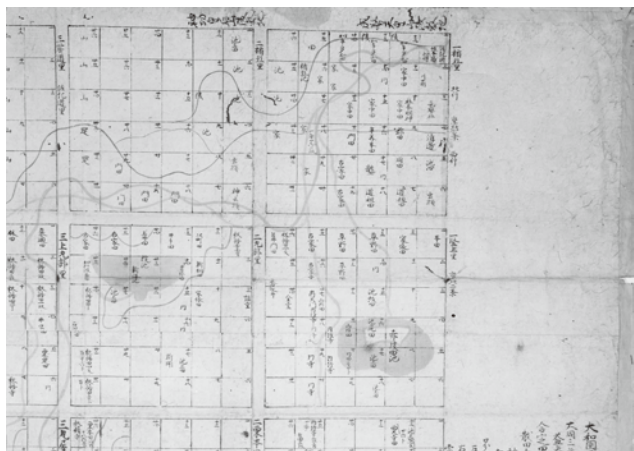


西大寺

やまとのくにそうのしもぐんけいほくはんてんず
大和国添下郡京北班田図

奈文研所蔵乾板

永野氏が撮影した六枚の写真を合成しました。西大寺の寺領を示すために、中世に奈良時代末から平安時代初頭ごろの班田図をもとにつくられたこの図は、北浦定政以降、平城京北限、特に「北辺坊」の存否に関する基礎的資料となっています。



西大寺

あいぜんどうもくぞうえいそんこうしようぼきつぎぞう
愛染堂木造叡尊(興正菩薩)坐像

奈文研所蔵乾板

戒律がいりつの振興と西大寺の復興で知られる興正菩薩叡尊えいそんは、重源とともに奈文研により重点的に調査研究されました。その成果は、『西大寺叡尊伝記集成』(昭和三十一年 史料第二冊)などをはじめとする多くの書籍、論文として発表されました。





大安寺資材帳

大安寺

十一面観音立像

奈文研所蔵乾板

大安寺の調査では、美術工芸品、古文書典籍、建造

物の調査に加え、南門・中門（昭和二十九年）や僧坊・

軒廊（三十一年）の発掘調査も行われました。十一面観

音は本堂の本尊。奈良時代の作で、平素は秘仏です。

正面からお顔をクローズアップした写真です。

東大寺

南大門金剛力士像（阿形像）

東大寺

南大門金剛力士像（吽形像）

東大寺

俊乘堂阿弥陀如来立像

奈文研所蔵乾板

南大門の金剛力士像の制作を指揮した運慶、また、

運慶とともに阿形像を制作するとともに、俊乘堂阿

弥陀如来立像などの多数の阿弥陀如来像を制作した

快慶。重源の東大寺再興事業に加わったこの二人の

鎌倉時代の仏師については、小林剛氏（奈文研美術

工芸室長のち所長）により『仏師運慶の研究』（昭和二十九年 学報第一冊）、『巧匠阿弥陀仏快慶』（昭和三十一年 学報第十二冊）が公刊されています。

東大寺

南大門

東大寺

大仏殿

東大寺

法華堂

東大寺

法華堂不空羅索観音立像

東大寺

鐘楼

帝塚山大学所蔵乾板

草創期の奈文研の調査研究の大きな柱である「南都諸大寺等の調査」のため、東大寺については、さまざま

な調査をおこなってきました。今回展示する写真の多くは、奈文研設立直後の昭和二十七〜二十九年に撮影されたものです。現在の南大門には「大華嚴寺」の扁額がかけられています。また、写真では、大仏殿の南面に舞台のようなものがみられます。

頭塔ずとう 石仏

奈文研所蔵乾板

飛火野とびひの近くにある頭塔は、その後、長期にわたり、奈文研が中心となって発掘調査と復元整備に取り組みました。

東大寺とうだいじ 俊乘堂しゅんじやうどう俊乘房しゅんじやうぼう重源上人じゆうげんしやうにんぎ坐像ざざう

帝塚山大学所蔵乾板

南無阿弥陀仏なむあみだぶつ作善集さぜんしゆ

胡宮神社このみやじんじや 僧重源そうじゆうげん仏ぶつ舍利送状せりじやう

奈文研所蔵乾板

鎌倉時代初頭に東大寺再興を進めた俊乘房重源については、南都諸大寺の調査研究の一環として、昭和二十七日〜三十五年度に重点的に調査・研究をおこないました。南無阿弥陀仏と号した重源の善行の業績を列記した『南無阿弥陀仏作善集』については、東京大学史料編纂所が所蔵するものをコロタイプ印刷して、

史料第一冊（昭和二十九年）として公刊しました。写真は、その際に永野氏が撮影したものです。また、『俊乘房重源史料集成』（昭和三十九年史料第四冊）を公刊したほか、小林剛氏が『俊乘房重源の研究』（昭和四十六年）を出版しました。

東大寺とうだいじ 阿弥陀悔過料資材帳あみだけかりようしざいちやう

（一巻 重要文化財）

奈文研所蔵乾板

東大寺阿弥陀堂でおこなわれた阿弥陀悔過あみだけかに使用された法具や資材などの宝物を列記した目録です。まず記載品目の目録を掲げ、次にそれらを編入別にして詳細に品目を列記し、個々に法量や特徴を注記、さらにそれらのうちの破損したものとや失われたものを摘録するという構成になっています。巻末には神護景雲元年（七六七）八月三十日の年紀と、資財帳の作成にあたった役僧（寺の事務を扱う僧）の署名がみえます。しかし、文中に本文と同筆で「（神護）」

景雲三年「宝亀四年」「宝亀九年」とあり、役僧の署名も自筆とは認められないことから、神護景雲元年に作成された資財帳をもとに、宝亀九年（七七八）以降、作り直されたものと考えられています。

「悔過」は、犯した罪や過ちを反省し、罪報を免れることを求める仏教行事のことで、阿弥陀仏を本尊とするものが「阿弥陀悔過」です。奈良時代には悔過が盛んにおこなわれましたが、阿弥陀悔過がおこなわれたことがわかるのは、この東大寺阿弥陀堂のほか、多度神宮寺だけです。本史料にみえる「横笛」や「合笙」といった楽器は、奈良時代の各種悔過や、現在の奈良諸寺に伝わる悔過系法会には使用されていなかったので、たいへん特徴的なものといえます。

卷末に署名がある役僧二名のうち、平栄は占墾地使として天平感宝元年（七四九）に越中国（現在の富山県）へ赴き、国司大伴家持にもてなされました（『万葉集』卷一八・四〇八五）。



【展示写真の釈文】

破不用物

緑帳二条 各八副、長二丈二尺三寸、一条七副、一条八副

緑繩端二条 一条五副、一条六副

布帳三条 一条四副、長三丈二尺、二条各八副、長二丈二尺七寸、

布端一条 六副、長四尺

楊花箱二口 堂畳三枚

磬台花木二枝 破損不用

失物

水精念珠一貫 以天平十七年三月所盜、申送沙弥道隆、

横笛一管 大唐 納紫袋一口 以天平十八年七月廿八日所盜

合笙一管 斑竹、長一尺七寸、

納沙合纈袋一口

机一前 漆 褥一枚 表錦 裏淺綠纈

褥一枚 表白綾、裏淺綠纈、古破

香印坐花二抹 黒柿櫃一合

布杖綱四条 以上四種時々所失

堂幡一首 小幡一首

右悔過料資財見物并所失状注頭如件

神護景雲元年八月卅日、別当僧闍崇

事知大法師平栄

興福寺こうふくじ 日本靈異記にほんりょうい（上巻） 国宝こくぼ

奈文研所藏乾板

正式な書名は『日本国現報善悪靈異記』。上中下三巻からなる、日本最古の仏教説話集です。薬師寺の僧景戒けいけいの撰。弘仁年間こうにん（八一〇〜八二四）に成立。

興福寺には上巻のみ伝わっており、大正十一年（一九二二）に東金堂から発見されました。巻末に「延喜四年五月十九日午時許写已畢」とありますが、本写本は、延喜四年（九〇四）に書写され、それを少し後の時期に改めて写されたものと推測されています。上巻には五世紀後半の雄略天皇ゆりやうりやくてんのうの時代から神亀四年（七二七）までの説話が三十五縁（一つの説話を縁と呼びます）収められています。

永野氏が撮影しているのは巻首、第十八縁、巻末です。そのうち、第十八縁は法華経にまつわる現報譚で、前世・現世の因果を説きます。伊予国和気郡いよのくにわけのこほり（現在の愛媛県松山市北部）の日下部ひくさかべ猴の子が大和国葛上郡かつかみ（現在の奈良県御所市）の丹治比氏にわたらひの家に生ま

れ変わり、法華経に説かれる観音の悔過により、前世・現世双方の親にまみえたという展開をみせています。これにより、現世の所業が原因となり、来世にその結果が必ず現れるという教訓を導いています。

【第十八縁の読み下し文】

法花経を憶持ちて現報を得奇しき表を示す縁第十八
昔大和国葛木上郡に、一の経を持つ人有り。丹治比の氏
なり。其れ生れながら知りて、年八歳以前に法花経を誦持
つ。意にただし一の字のみ存つことを得ず。二十有余歳に
至りてなほ持つこと得難し。観音に因りて悔過す。時に夢
に見らく「人有りて曰はく「汝昔先の身に伊予国別郡の日
下部猴の子と生在りし時に、汝法花経を誦み奉りて燈に一
の文を焼きき。故に誦むこと得ず。今往きて見よ」といふ
」とみる。夢より醒め驚きて、思ひ怪びて、其の親に白し
て曰さく「急に縁有り。伊予に往かむと欲ふ」とまうす。
二親聴許す。然うして謔ひ行き、猴の家に到りて門を叩き
人を喚ぶ。すなわち女人出でて咲を含みて還り入り、家母
に白して曰さく「門に客人在り。恰も死にし郎の似し」と
まうす。聞きて出でて見ればなほし死にし子に疑たり。家



長見てまた怪びて問ひていはく「仁者は何の人ぞ」といふ。答へて国郡の名を陳ぶ。客人もまた問ふ。答へて具に往の姓名を告知らす。明に是れ我が先の父母なることを知り、すなはち長跪きて拜む。猴愛びて喚び入れ、床に居ゑて瞻りて言はく「もし死にし昔の我が子の霊か」といふ。客人具に夢の状を述べて謂はく「翁姥は吾が先の父母なり」といふ。猴また因を語りて示して曰はく「我が先の子の号は某れ。其の子の住みし堂と読みし経と持たりし水瓶と等は是れなり。」といふ。先の子の聞きて堂の内に入り、彼の法花経を取りて開き見る。当に誦まれぬ文燈に焼き失せたり。時に懺悔い、直し奉りて後に、熟然に持つこと得。是に祖子相見ひて一は妖び一つは喜ぶ。父子の義孝養に失はず。賛に曰はく「善きかな日下部の氏、経を読み道を求めて、過現の二生に重ねて本の経を誦み、現に二の父を孝ひ、美き名後に伝ふ。是れ聖なり。凡にあらず」といふ。誠に知る、法花の威神と観音の験力とを。善悪因果経に云はく「過去の因を知らむと欲はば、其の現在の果を見よ。未来の報を知らむと欲はば、其の現在の業を見よ」とのたまふは、其れ斯れを謂ふなり。

(岩波書店 新日本古典文学大系三〇 日本霊異記より抜粋)

海住山寺 かいじゆうせんじ
僧貞慶仏舍利安置状 そうじよけいぶつしゃりあんちじよう

(一卷 重要文化財)

奈文研所蔵乾板

貞慶は鎌倉前期の法相宗の学僧。藤原通憲(信西)の孫。建久四年(一一九三)、東大寺末寺の笠置寺に隱棲し、法然の専修念仏を批判して奈良仏教の復興に尽力したことで知られます。その後、同寺に般若台を創建した際には、東大寺の重源が、六葉の梵鐘(重要文化財)と『宋版大般若経』一部を寄進しています。承元二年(一一〇八)、恭仁京跡の北方の山寺(海住山寺 京都府木津川市)を再興しました。承元二年九月七日、貞慶は、「院」すなわち後鳥羽上皇から水晶製の容器に納められた仏舍利二粒を賜ります。一粒は東寺の舍利(弘法大師空海が唐より持ち帰ったもの)、一粒は唐招提寺の舍利(鑑真和尚が持ってきたもの)とされます。本文書は、その二粒の舍利を山城国海住山に安置する旨を記したもので、

貞慶の自筆。なお、貞慶に舍利と届けた「御使長房卿」は、のちに貞慶の後継者となる藤原長房（覚真）です。

【展示写真の积文】

仏舍利二粒 納水精塔

一粒 東寺

一粒 招提寺

件舍利者、承元二年 九月

七日、於河内国交野新御堂、

従 院所奉請也。御使長房

卿云其色濁者東寺也。其色

澄者招提也云々。今有愚願

奉安置山城国海住山了

承元式年九月九日 沙門（花押）

海住山寺

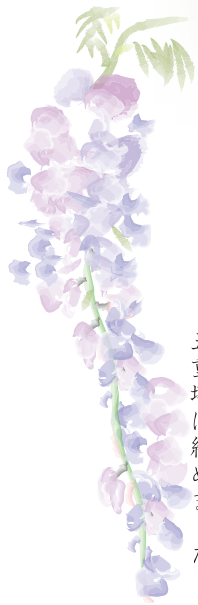
僧覚真仏舎利安置状

（一卷、重要文化財）

奈文研所蔵乾板

覚真は俗名を藤原長房といい、実務官僚としての道を歩むと同時に、撰閑家の一つである九条家の家司でもありました。承元四年（一二〇一）、貞慶の戒を受けて出家し、仁治四年（一二四三）に没するまでの後半生を、荒廢した海住山寺の復興に尽力しました。海住山寺に残る五重塔（国宝）は、貞慶の遺志を継いで覚真が完成させたものです。

建保二年（一二一四）、師貞慶の一周忌にあたり、覚真は、仏舍利七粒を海住山寺の五重塔に安置します。七粒のうち二粒は、貞慶が後鳥羽上皇から賜った東寺と唐招提寺の舍利です。これに五粒を加えて五重塔に納めました。



【展示写真の釈文】

海住山寺

五重宝塔安置仏舍利七粒、建保

二年二月三日、当先師登霞周忌、終

供養之、七粒内二粒、先師御相伝

也、其子細在別記、五粒今奉加之、

七粒安置有所表、永莫他散、

沙門覚真



奈良大和路仏像ポスター（第三十一回）

奈良大和路仏像ポスター（第四十六回）

奈良大和路仏像ポスター（第五十六回）

帝塚山大学所蔵乾板

奈良大和路仏像ポスターは、現在も制作が続いていますので、ご存知のかたも多いでしょう。

永野氏が最初に撮影した第五回（昭和三十一年）の東大寺法華堂月光菩薩像のポスターは、翌年、「世界観光ポスター展」で最優秀賞を受賞しました。現物が残っていませんので、同じ月光菩薩像を写した第三十一回（四十四年）のものを展示します。第四十六回（五十二年）は東大寺法華堂執金剛神像、第五十六回（五十七年）は橘寺日羅像（地藏菩薩像）を写したものです。永野氏は、昭和三十一年から平成三年までの間、二十四回、撮影者となっています。

平成29年度春期企画展「永野大造作品展－草創期の奈文研を支えた写真家－」永野大造展示作品一覧

No.	作品名	乾板所蔵
1	岡寺 仁王門	奈文研
2	岡寺 塑造如意輪観音坐像	奈文研
3	岡寺 塑造如意輪観音坐像	奈文研
4	岡寺 塑造如意輪観音坐像	奈文研
5	岡寺 懸額	奈文研
6	唐招提寺 鑑真和上坐像	帝塚山大学
7	唐招提寺 金堂西鷗尾	奈文研
8	唐招提寺 金堂東鷗尾	奈文研
9	唐招提寺 金堂東鷗尾	奈文研
10	唐招提寺 金堂千手観音立像	奈文研
11	唐招提寺 金堂諸仏	奈文研
12	唐招提寺 金堂帝釈天立像台座裏落書	帝塚山大学
13	唐招提寺 金堂帝釈天立像台座裏落書	帝塚山大学
14	唐招提寺 勅額	帝塚山大学
15	唐招提寺 金堂	帝塚山大学
16	唐招提寺 中樞伽藍遠景（北東側から）	帝塚山大学
17	唐招提寺 経蔵と宝蔵	帝塚山大学
18	唐招提寺 鼓楼と礼堂	帝塚山大学
19	唐招提寺 戒壇	帝塚山大学
20	西大寺 如意輪観音半跏像	帝塚山大学
21	西大寺 大和国添下郡京北班田図	奈文研
22	西大寺 愛染堂木造歡尊（興正菩薩）坐像	奈文研

No.	大安寺資料帳	奈文研
23	大安寺 十一面観音立像	帝塚山大学
24	東大寺 南大門金剛力士像（阿形像）	帝塚山大学
25	東大寺 南大門金剛力士像（吽形像）	帝塚山大学
26	東大寺 俊乗堂阿弥陀如来立像	帝塚山大学
27	東大寺 南大門	帝塚山大学
28	東大寺 大仏殿	帝塚山大学
29	東大寺 法華堂	帝塚山大学
30	東大寺 法華堂 不空罽索観音立像	帝塚山大学
31	東大寺 鐘樓	帝塚山大学
32	頭塔 石仏	奈文研
33	頭塔 石仏	奈文研
34	東大寺 俊乗堂俊乗房重源上人坐像	帝塚山大学
35	東大寺 俊乗堂俊乗房重源上人坐像	帝塚山大学
36	南無阿弥陀仏作善集	奈文研
37	胡宮神社 僧重源仏舍利送状	奈文研
38	東大寺 阿弥陀懺過料資料帳	奈文研
39	興福寺 日本靈異記（上巻）	奈文研
40	海住山寺 僧貞慶仏舍利安置状	奈文研
41	海住山寺 僧覚真仏舍利安置状	奈文研
42	奈良大和路仏像ポスター（第31回）	帝塚山大学
43	奈良大和路仏像ポスター（第46回）	帝塚山大学
44	奈良大和路仏像ポスター（第56回）	帝塚山大学
45		

2017年4月29日

編集・発行 独立行政法人 国立文化財機構
 奈良文化財研究所
 〒630-8577 奈良市佐紀町 247-1
<https://www.nabunken.go.jp/>

印刷 能登印刷株式会社

